

- 1 派遣期日 令和4年 8月 4日(木) ~ 8月 5日(金)
- 2 派遣先 学校名(会場名) 宮崎市民文化ホール(1日目), 宮崎公立大学(2日目)
所在地 宮崎県宮崎市花山手東3丁目25-3(1日目)
宮崎県宮崎市船塚1丁目1-2(2日目)
<http://www.the-miyanichi.co.jp/special/nie2022/>

3 研修内容

(1) パネルディスカッション

「NIEで伸びる力, 伸ばす力~子どもたちを持続可能な未来の創り手へ」

ア 宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校指導教諭・日本新聞協会NIEアドバイザー, 木幡佳子氏

- ・新聞をスクラップする活動によって, 記事を要約することしかできなかった生徒が, 徐々に, 記事に対する感想, さらに記事に対して自分の意見を書くことができるようになった。
- ・「よくできました」や「がんばりました」のスタンプを押された生徒は, なぜ, 「大変よくできました」ではないのか考え, レベルアップした内容のノートを提出するようになる。

イ 宮崎県立宮崎西高等学校1年, 高村心花さん

- ・中学校時代に3年間スクラップの活動を続けてきたことにより, 自分の意見を書く力が身に付いた。

ウ 宮崎大学理事・副学長, 新地辰朗氏

- ・NIEは読解力を伸ばすことも可能。非連続型テキスト(写真やグラフ, 図や表)を読み取ることも読解力の一つである。新聞記事には, そのような非連続型テキストも掲載されているため, 新聞を活用することが読解力を向上させることに有効である。
- ・実用的な文章(報告書やマニュアル)を読み取る力も育つ。
- ・NIEは続けることが大切であり, そのためには教師側が頑張らないことが大切である。生徒がスクラップしてきたノートにコメントは入れず, 線を引いて丸をつけるのみでも構わない。
- ・最初は強制的に提出させることが必要。それを習慣化していくしかない。

エ こゆ地域づくり推進機構・教育イノベーション推進専門官, 中山隆氏

- ・NIEの方法の一つに新聞記者と協力して活動する方法がある。これは, 記者に必要な力が分かったり, 記者は地域のことをよく知っているため, 地域の学習に活用することができたりする。さらに, 記者はさまざまな職業の人について詳しいため, キャリア教育につながるという可能性も考えられる。

(2) 公開授業「新聞スクラップの活用~汎用性のある発展を目指して~」

(宮崎県立宮崎大宮高等学校)

ア 成果

- ・「10年後, どのような未来を望むのか。」というテーマで, 各自スクラップしてきたノートを見合う活動を行った。知床観光船についての記事や宮崎県が生産量を誇るピーマンについての記事, 災害時のピクトグラムについてなど, さまざまなスクラップノートが見られた。新聞をスクラップする習慣が身に付くことで, 今日の社会的事象に目を向けて自分なりに考える力が高まると感じた。
- ・スクラップノートを見合う活動を通して, 関心の薄かった社会的事象に対しても目を

- 向ける良い機会となり、関心が広がるとともに、進路選択にもつながっていく。
- ・スクラップする新聞は、学年で1部配付される新聞と、担任が個人的に購読している新聞を使用している。生徒たちは、それをコピーしてスクラップを作っていた。
 - ・スクラップの活動を始めた当初は、強制的に提出させるところから、習慣化するまでに至った。

イ 課題

- ・生徒たちのアンケートによると、新聞を購読している家庭は5割程度である。そのような生徒たちに、新聞を身近に感じてもらうためには、身近に新聞がある環境をつくる必要がある。
- ・個人的に新聞を購読している教師が担任でなくなった場合、生徒たちが新聞に触れる機会が減ってしまう。
- ・写真から社会的事象の背景を考えたり、授業での発問に生かしたりすることができるため、新聞記事にグラフや写真などの資料が多くあると良い。

(3) 公開授業「身近な地域の調査～国富町の将来を考える学習を通して～」

(国富町立本庄中学校)

ア 成果

- ・地元へ愛着を持ってもらうために、20年後の国富町を発展させるための方法を提案させた。
- ・作成した新聞は、縮小して冊子にし、地域に置いて発信していくことができる。
- ・国富町を発展させるためのキャッチコピーを考えた活動は、アウトプットすることにつながる。
- ・調べ学習を通して、生徒たちは、地域の強みや弱み、思いを知ることができた。このことは、キャリア教育につなげていくことができる。

イ 課題

- ・20年後をイメージして活動したが、具体的に20年後の自分をイメージすることが中学生にとっては難しかった。
- ・地域を発展させるためのキャッチコピーを考える活動では、グループで一つにまとめることが目標だったが、難しい様子であった。

4 感想

NIEを行うことで、自分の考えを記述する力や考える力を高めることができる。それらの力を育成するためには、やはり継続することが何よりも大切である。そのために、まずは実践することが必要で、教師側は、生徒が提出したノートに対してコメントは書かず、スタンプを押して返却するなど、とにかく継続できる工夫が必要である。

週に一度、朝に「NIEタイム」を設けている学校では、小学校2年生は、新聞記事の中から、夏らしい写真を見つけて切り取るというテーマで、グループごとに画用紙に貼って見合う活動、小学校3年生では、自分で記事を選んで感想を書く活動、小学校6年生では、自分で選んだ記事について、1人1台端末を用いてデジタル新聞を作成する活動を行っていた。このように、NIEでは発達段階に関係なく取り組むことができる。

変化が激しい社会を生き抜くには、受け身ではいけない。そのため、「自分の学び方」を教えることが学校の役割である。さらに、自分の学び方を振り返って修正していく力も必要であるため、新聞をスクラップし、感想や意見文を書く活動は有効である。

課題として、家庭に新聞がない場合、スクラップすることが難しいことや、身近に新聞がある環境をつくるために、新聞を購入する資金源はどのようにするのかということが挙げられる。本校では、3紙を公費で購読しているため、ICTを有効活用しながら、社会科の授業を中心にNIEを推進していきたい。